

丹波市の権利擁護支援に関するヒアリング調査 結果概要

1. 目的

丹波市の権利擁護支援（高齢、知的障がい及び精神障がいなどにより判断能力が十分でない方が、地域で普通に生活を送るために、また困った時や虐待・消費者被害等を受けた状況でも、その人らしく安心した生活が送れるように支援を行うこと）や成年後見制度の利用状況について現状を把握することを目的に実施します。

2. 調査対象者

高齢、精神保健福祉手帳又は療育手帳所持者、日常生活自立支援事業利用者

3. 調査人数

19人（夫婦2組含む）

4. 調査期間

令和3年10月1日～令和3年12月15日

5. 回答率

100%

対象者	ヒアリング内容
① 40代 精神保健福祉手帳	<p>仕事が増えて、少しはお金のことは楽になった。母のデイサービスの日に合わせてシフトをくんでいる。母のため、自分のため。仕事が決まらなかった時は気持ちはしんどかった。週1回という条件で難しいのは分かっていたけど。環境が変わる不安はある。そう行った時は病院に行って薬を飲んで落ち着く。相談できる相手は社会福祉協議会担当者、相談しながら上手くやっていきたい。生活面でも。兄、姉はいるけど、分かってもらえること、そうでないことがある。お金のことで心配、不安がある。食事について、調理ができないので、買い物でおかずを買っている。姉に言われる、惣菜買わんと自分で作りやと。母は食べるものが限られる。柔らかいものでないと。母のケアマネジャーの月に1回の訪問の際、食事の話はするけど、調理するようにとかは言われない。調理教室みたいなものがあれば、チャレンジしたいと思う。兄は仕事があるので家事は自分が全てしている。掃除は汚れたら拭くぐらい。車関係が好き、音楽がかけられるように軽だけど、スピーカーをつけたりしたい。ラジオしか聞けないからCDが聴けるように。音楽が好き、古い音楽だけど。ガソリンが高い。今の車は燃費が良くないので、良い車に乗りたいと思っている。(不安なことは?) お金の心配と、病気がいつ治るか。受診するのをやめようかなと思うことも、受診を1回したら、5,000~6,000円かかるので1回分浮いたら大きな額になる。薬、きついのを飲んでから、夜間に母がトイレに行っても起きれない。頭では分かっているけど起きれない。仕事を増やして家にお金をいれたいと思うけど、時間と病気でできない。ワクチンの1回目を接種した時、2~3日経ってから腕に痛みがでてきた。2回目の接種の際、そのことを相談したけど接種はできた。母の予防接種の予約は、電話が全然つながらず、10回ぐらいかけてつながった。パソコンがあれば予約できたけど、パソコンを使えない。</p>
② 40代 精神保健福祉手帳	<p>ご飯の買い物、準備は姉が行っている。買い物は姉に頼まれたらしている。お金は預かって行く。洗濯、掃除は自分が行っている。お金の管理は姉が行っている。日常生活自立支援事業で1ヵ月に1回、お金を持って来てもらっている。病院代、必要なものは自分で管理、買っている。利用のきっかけは相談支援専門員にすすめられた。日常生活で話す人はあまりない。近所にもいない。テレビを見てるぐらい。姉と2人暮らしで相談相手はいない。姉がいないと困る。食事を作ってもら。姉がいないと生活できるか分からない。手紙や通知物は題だけ見て内容は読まない。提出などは自分でしている。市役所に行く時は「おでかけサポート」を利用したり、</p>

	<p>自転車で行く。「おでかけサポート」は自分で予約する。体調は元気、今まで2回入院している。入院したくない。不安、4人の部屋はいや。昔と比べてできなくなったことはない。好きなこと、やってみたいことはない。成年後見制度は知らない。</p>
③ 60代	<p>日常生活自立支援事業を利用したは5・6年前から。食事の準備、買い物はヘルパーさんにお世話になり、夕食を作ってもらっている。朝食は食べない。日中は通所施設に行っている。通所施設に行ってからジュースを飲む。掃除も毎日ヘルパーさんに来てもらっている。洗濯は自分でしている。全自動の洗濯機が欲しい。通所施設は2万円ほどの給料が入る。服とかオシャレにお金を使っている。衣料品店で買い物。自転車でこけてから外出は歩いて行く。悔しい。医療機関に1ヵ月に1回通院している。朝、コレステロールの薬を服用している。精神科病院の薬を朝・晩服用している。精神科病院訪問看護さんが大型商業施設への買い物に付き添ってもらえる。精神科病院は、しんどくなって、頭が分からなくなってご飯も食べられなくなって受診した。2週間に1回通院しており、「おでかけサポート」を利用している。予約は自分で電話連絡している。朝・晩服薬をしている。日常生活では、通所施設や近所の人と話をする。近所の人がかけてパンやジュースをくれたりする。母の兄妹がいるが連絡先を知らない。日常生活自立支援事業を利用するきっかけは、お金のやりくりが大変になってきたから。お金をもらえるのは嬉しい。1ヵ月に2回持ってきてもらえて、話や相談ができるので安心がある。成年後見制度のことは知らない。</p>
④ 61歳 精神保健福祉手帳	<p>食事は、月～金の晩お弁当を利用。病気でカリウム値を控えないといけないので、白菜なら白菜で茹でこぼしにしている。ヘルパーさんに掃除、買い物をお世話になっている。買いたいものをリストアップしてヘルパーさんに渡す。洗濯は自分でしている。部屋干し。週2回午後リハビリに行っている。週2回通院している。リハビリの日は午前散歩、それ以外の日は午後散歩している。主治医から散歩するように言われている。だいたい1,000歩歩いて10分休む。糖尿と心不全で体調が悪くてケアマネジャーが担当してくれている。仕事を探すためハローワークに相談も行っている。困りごとや心配ごとの相談はヘルパーさんに相談できる。近所に相談相手はいない。話ぐらいはするけど、年上の人ばかりなので自分が相談することはない。妹が近隣他町、他に親戚が県内他市や他府県にいる。病院を退院してから、通帳を見ても残額を覚えられない。支払いがあちこちにしているのが面倒なので日常生活自立支援事業を利用した。免許証の返</p>

	<p>納をした。片目が見えない。携帯に迷惑メールが毎日 100 件ぐらいくる。「お友達になりたいです。」「長生きできないから 9 億円譲ります。」など。 成年後見制度は知らない。</p>
<p>⑤ 40 代 療育手帳</p>	<p>同居親族がいなくなり 1 人になった。金銭管理がうまくできず、障害福祉サービスの利用をする際に社会福祉協議会の職員から日常生活自立支援事業の利用を勧められた。洗濯や食事の準備は自分で。ご飯も炊けている。買い物は知人に連れて行ってもらう。掃除はあまりしたことがない。ヘルパーさんにしてもらっている。体調悪いときは自分でかかりつけの医院や歯医者に電話して受診している。物事の判断で悩むときは知人や友人に相談している。知人とよく話をする。自治会のことなんかは近所の人に聞くこともある。そんなに変わったことはない。膝が痛かったり紙パンツに変わったくらい。お金の支払いとかそんなんでできなくなったことはない。生活でしにくくなったことは介護の相談員さん、お金のことは社会福祉協議会職員に相談している。日常生活自立支援事業や成年後見制度は初めて聞いた。</p> <p>面談後、社会福祉協議会職員より 本人利用当初はかなり拒否があった。今は慣れてきて、利点に気づいているので拒否はないが。先ほどの成年後見制度や日常生活自立支援事業は、過去に何回か説明したことがあり、その時は「ふんふん」といって聞いていたが理解されていないと思う。先ほど市職員からした制度説明についてももう忘れていてのではないか。現在本人は日常生活自立支援事業を利用されているが、そのほかに周りの知人の関係で送迎を受けているのでやっていけている。送迎が無くなった時に送迎で困り、タクシー利用が増加したら大きくマイナスが出始めると思う。また、自宅の風呂場が壊れた時に修理する必要があったが、本人がどうしたらいいかわからなかったため社会福祉協議会や市等で意思決定支援を行ったが、いつか成年後見制度に切り替えていく必要があると感じている。一つの目途は働けなくなったり、65 歳になるころかなと思っているが。何かあった時に相談する先が、知人の次に近所といっていたが、近所との交流はあまりない。現状社会福祉協議会には毎日 1 回～数回細かいことを電話してこられる。自分がいなければ管理者が対応する。他にも市など、あっちこっちに電話されているようだ。他にも地域で遠い親戚にあたる人が何人か関わってくれており、そのため地域で生活ができています。</p>
<p>⑥ 70 代夫婦</p>	<p>60 代の時に脳幹出血になって仕事を辞めたが、もっと働きたかった。麻痺が残り、字を書くのも早く書けない。不自由、食事やボタンをとめた</p>

	<p>り。2～3年ほどアルバイトをした。自治会の役も担ってきた。日常生活自立支援事業を利用したきっかけは、二女が相談したため。金遣いが荒かった。自分で管理することはアカンと言われた。3年前にガンの手術をしたことを機に、通帳の管理をしてもらうようになった。生活も困難。何とかできていたが、借金もあった。今も残っているが、友人に3人ほどだけ。この半年でプラスになってきた。最初は預かってもらうことに不満がいっぱいあった。むちゃくちゃで計画できなかったが、今はして良かったと思っている。お金は2週間に1回持参してもらっている。連休中、葬儀などが入ったら臨時でお金を出してもらうことがある。無駄遣いをしないことが大事。友人はたくさんいるけど、困ったことを相談できる友人はいない。社会福祉協議会職員、二女（しっかり、厳しい）に頼っている。新しくチャレンジしたいこととして、車の運転を再開する。外出の際、「おでかけサポート」を利用していたが、予約が面倒だったり、キャンセルを入れることができない。同席の妻は、体調が良いが寒い日があると風邪をひいたりする。介護保険の申請をして認定がある。訪問介護を利用しており、担当の居宅介護支援事業所ケアマネジャーが具合良く聞いてくれる。体調や段差、ベッド、手すりの設置のことも相談している。成年後見制度のことは知っている。いつまでも頼りになることはアカン。いつか自立したい。お金の管理も。</p>
<p>⑦ 80代夫婦 身体障害者手帳</p>	<p>平成28年頃～夫リウマチを発症し、医療費が高額になることもあり民生委員や医師から勧められて生活保護を受給。同時に日常生活自立支援事業開始。妻は要介護1。週に2回デイサービスに行っている。手押し車を押して徒歩7～8分のスーパーへ買い物に行くことができる。認知症の診断あり。夫は要支援2。シルバーカーで外出できる。週に2回通所リハに行っている。ケアマネジャーがついており、週に4日、ヘルパーが入っている。調理や掃除、洗濯などの家事を手伝ってもらっている。今のところケアマネジャーや社会福祉協議会の日常生活自立支援事業担当者や支援員に相談し、一緒に考えることで判断が必要な時に対応できている。自宅に届いた郵便物は決まった場所に貯めてあり、日常生活自立支援事業担当者や支援員、ケアマネジャーに確認し一緒に処理している。大切なカードなどは夫婦（主に妻）が管理しているが、先日も予防接種カードを紛失し、再発行してもらった。袋に入れて大切な物（介護保険受給者証など）を管理しているが、いるものといらないものを分けたりすることも難しく、また紛失することもたびたびあるとのこと。夫婦とも体調はよい。夫も認知症疑いがあり、数字や日付が言えないことや加齢に伴い思い込みが強くなってきている面もある。また、認知症の妻がボーっとしていることや前は</p>

	<p>できていた畑仕事ができなくなってきたことに対し、夫がイライラをぶつけ強くあたる場面もあるとのこと。夫はお金をうけとっているのに、もらっていないと言うこともある（社会福祉協議会担当より）。民生委員さんとはあまり関りが無い。近所のご夫婦がいつも気にかけてくれ「買い物する物があつたら乗せて行ってあげますよ」と言ってくれたり声をかけてくれる。ほかの近所の方も親切に声をかけ、気にかけてくれる。近所の人には本当によくしてもらっている。友人からお米を購入している。身内は他市に息子が1人いて、電話をかけてきてくれる。今度、丹波市に遊びにおいでということになっていて、その時の食事などは息子がするからと言ってきている。何かあった時は息子にも相談ができる。夫婦は特にない、と話したが、日常生活自立支援事業担当者によると認知症の進行により大切な物を紛失したり、記憶があいまいになっている点があるとのこと。夫婦は自覚がないようである。難しい判断は夫婦だけでせず、ケアマネジャー、日常生活自立支援事業担当者、支援員、ヘルパーなど福祉の支援者に相談するようにしている。成年後見制度は名前も聞いたことがない様子。制度を簡単に説明するも、今現在、日常生活自立支援事業担当者やケアマネジャーに相談し判断を手伝ってもらうことで各種申請行為や金銭管理が自分たちの思いで実際にできていることから、「今しているように手伝ってもらったらできる。安心して任せられて心強い」と考えているようで、成年後見制度の利用の説明をするがなかなか理解が難しく、今のままで暮らし続けていくことができると思っている様子であった。自宅に固定電話はなく、夫婦それぞれ携帯電話を持っている。10日ほど前に妻の携帯に「息子さんの名前は」など色々な情報を聞き出そうとする不審な電話がかかってきた。怪しいと思い「今、家に息子が来ているので代わりましょうか」と言うと相手から電話を切った。ヘルパーがちょうど来ている時であった。そのほかに不審な電話や怪しい人が訪問してきたことはないようである。今はそのような怪しい勧誘などにも騙されないという自信がある様子。</p>
<p>⑧ 60歳 身体障害者手帳</p>	<p>日常生活自立支援事業は、主に書類内容の確認と代筆を行っており、お金の管理は自分で行っている。お金については通帳から引き出す時と、支払いの手伝いをしてもらっている。血糖値が上昇し、網膜剥離となり視力が低下した。2～3年は特に大変だった。ヘルパーさんに週3回来てもらい、食事の準備や買い物などしてもらっている。洗濯や掃除など動けることは自分でしている。居宅介護支援事業所ケアマネジャーに担当してもらっており、週2回 pm は体操教室、週2回は作業所、月2回はショートステイを利用している。ケアマネジャーに相談ができる。近所の人にもよく</p>

	<p>みてもらったり、援助してもらっている。他府県に妹がいるが、電話もしないし、相談することもない。立てって中腰でいるとしんどく腰痛になる。座って掃除機をかけている。1年1年腰、歩けない。将来、家のこと、墓のこと、仏壇のこと、誰が処分するのかを心配に思っている。もの忘れ？認知症？のことも不安に思う。毎週1回、往診に来てもらっている。「おでかけサポート」は利用の計画をたてて、ケアマネジャーから連絡してもらっている。成年後見制度は、もともと弁護士にお世話になっていたが、自立できているからという理由で日常生活自立支援事業を利用することとなった。</p>
<p>⑨ 80代</p>	<p>日常の掃除、洗濯、食事の準備は自分でしている。畑にも出て家周辺の草引き等もできる範囲でしている。買い物は近所に住む娘が車で連れて行ってくれるが買う物は自分で選んでいる。お金の出し入れも金融機関まで娘が車で連れて行ってきて、キャッシュコーナーで出し入れしてくれるが、金額は自分が決めて頼んでいる。娘が不在で、頼めない時は自分でも金融機関まで歩いて行って出し入れする事もある。体調は自分では元気だと思っている。日課の散歩も続けている。血圧や喘息は診療所で薬を貰って自分で管理している。10月の血液検査も異常なかった。日常生活上での判断は自分でしている。転倒してケガをした時や訪問販売等が来た時など、いつもと違う状況の時は娘に電話する。近所に住む友人とは一緒に散歩したりデイサービスに行く等、何でも話せる良い関係。娘とも良く話す。最近では地域の行事や夜の集金常会への参加ができなくなって、区長さんや近所の人をお願いしている。重い荷物の上げ下ろしや引いた草の処分なども難しくなり、近所の娘夫婦がしてくれる。日常生活自立支援事業や成年後見制度は知らない。</p>
<p>⑩ 60代</p>	<p>車を運転しスーパーへ買い物に行っている。野菜と自家用米は田畑で作っている。買って来たものや作ったもので自炊している。同居していた父親が亡くなってから3年間は貯蓄を切り崩して生活していたが、年金が入るようになり精神的に楽になった。糖尿病の治療で医療費がかさむため、受診を控えている。お金の管理は自身でできている。洗濯はしているが、掃除は何年もしていない。(玄関も乱雑)生活していく中で困らないので、掃除支援は必要ない。困ってくれば地域包括支援センターに相談する。近隣とは以前からあまり交流がなく、数年前に近隣とトラブルになってから疎遠。近所に実姉家族がいるが、お金の困らなくなったので行き来はしなくなった。糖尿病の神経症状が強くなってきた。手足にしびれがあり、視</p>

	<p>力も落ちてきた。主治医には相談しているが、生活に困ることが出てきたら地域包括支援センターに相談する。日常生活自立支援事業、成年後見制度については知らない。何かあれば姉に頼ると思う。</p>
⑪ 70代	<p>脳梗塞で入院中に病院から相談あり。脳梗塞の後遺症のためか、記憶や判断力に低下あり。脳梗塞発症前後のことは全く記憶がない。自宅がゴミ屋敷のようなので、確認と介護保険申請のサポートをお願いしたいとのこと。未婚で唯一の親族としてた他府県在住の甥っ子がいたが支援はあまり望めないため、介護保険申請と同時に後見制度の説明と利用を勧める。すぐには対応できないため、病院側が銀行に本人と一緒に行き対応される。訪問系サービスを利用し、在宅生活をサポート。R3年7月保佐人が付く。本人の言葉「別に。みんなに言われたから。あまり実感はない。」食事は配食の弁当、調理は出来ない。買い物・受診は訪問系サービスにて、サポートあり。金銭管理は、現在日常のやりくりは本人がしている。(歩いてATMに行く)保佐人は書類の管理や手続きのサポート、他府県の家管理や投資信託などの管理を代理権付与として申請中。現段階では、日常のやりくりは本人に任せている。(日常生活でよく話をする人はいるか?)ほとんどいない。ヘルパーとケアマネジャーくらい。甥っ子からの連絡もほぼない。車の運転ができない、足の曲げ伸ばしができなくなった。相談する人は特にいない。日常生活自立支援事業については、聞いたことはある。どんな制度か詳しくは知らない。成年後見制度は、知らなかった。</p>
⑫ 60代	<p>金銭管理ができず、パチンコやタバコ代で年金を使うため食費が足りなくなっており親族から相談あり。当時は認知症の診断はなかったが、金銭管理は難しいという医師の診断もあり、親族も市外に住んでおられこまめな対応ができていなかったのも日常生活自立支援事業の利用をすすめ、本人も納得された。食事の買い物、ゴミ出しは「ふだんの暮らしサポートセンター」利用。洗濯、簡単な調理はできている。物事の判断は自身で決めておられるが金銭管理については日常生活自立支援事業を利用されているため、助言はあり。弟様とほぼ毎日携帯で連絡を取り合っている。近所とは疎遠。昔の釣り仲間にはたまに連絡している。本人：「全部」相談できるひとはいない。困りごとや不安は地域包括支援センター・社会福祉協議会支所に電話連絡あり。成年後見制度については、知らなかった。</p>
⑬ 80代	<p>夫は20年前に他界し独居生活。子供は娘が2人(他県在住)、骨粗鬆症、上腕の骨折歴あり。右眼は緑内障で殆ど見えない。ADLはほぼ自立。</p>

	<p>認知症はなし。要支援の認定あり。訪問介護、通所介護、配食サービスを週1回利用中。配食サービス日以外、食事は自分でつくる。買物は週1回タクシーを利用しスーパーへ出かける。洗濯は自分で行う。掃除は視力障害があり、週1回ヘルパーの支援をうけている（浴室やトイレ、台所）。月1回金融機関に行き出金、自分で金銭管理している。3年前に戸外で転倒し左橈骨骨折し手術を受けた。毎朝の血圧測定、服薬管理も自立。眼科や内科の定期受診は送迎サービスを利用している。隣人とは毎日話をする。親しい友人はいない。ヘルパーさんとは訪問時、よく話をする。長女は近隣他府県、次女は遠方他府県在住。コロナ前は毎年お盆に帰省していたが、ここ2年は会っていない。視力が落ち掃除ができなくなった。趣味の習字や編み物もできなくなった。カードで出金をしていたが、視力が落ち操作を間違える心配があるので、窓口で手続きをしている。次女とは月に1回程電話で話をする。長女とはあまり交流がない。自分から連絡を控えている。3年前に転倒骨折した時は、民生委員が病院に搬送し娘達に連絡してくれた（娘達は病院に来てくれた）。夫の親戚（義姉・義妹）と交流はない。弁護士に入ってもらい資産を分けた。日常生活自立支援事業や成年後見制度は、どちらの制度も知らない。将来介護が必要になれば施設入所を考えている。娘達には頼れないので、その時は年金で入れる施設をお願いしたい。</p>
⑭ 80代	<p>公営住宅入居、夫は他界し独居生活を続けている。子供はいない。要支援の認定あり現在、訪問介護、通所介護を週2回利用。15年前に脳梗塞発症、骨粗鬆症もあり現在杖歩行、ADLはほぼ自立。認知症はなく判断力も問題なし（病院の認知症スケールも異常なし）。食事は自分でつくる。買物はスーパーの宅配を週1回利用、他友人の車で大型商業施設などに月1回出かける。洗濯は自分で行う。ヘルパーに浴室や台所の掃除支援を受けている。認知症はなく、金銭管理は自身で行っている。趣味は歌を聞くことで訪問中も歌番組を流している。弟夫婦が県内他市在住で、夫の法事や用事があれば来てくれる。弟は私の将来を心配し不要な物は処分し屋内を片付けるよう再々言うのでタンスなどは処分した。趣味の置物なども捨てるように言うため喧嘩になることもあるが、頼りにしている。弟も高齢になりどちらが先に倒れるかわからない。弟には妻と息子がいる。他に他府県に姉と姪がいるが行き来はできない。市内に友人がおり、買物や通院、散髪に連れて行ってくれる。週に1回は会っている。電話でもよく話をする。体調不良時など連絡すれば来てくれる。友人は急な病気に備え、事前に弟にお金を渡しておくよう助言してくれる。公営住宅は、昔から住んでいる人は高齢化している。近隣者も90代で独居、難聴があり話はしない</p>

	<p>がごみを一緒に出してくれるので助かっている。団地の自治会に入っていて、集金常会には行っている。公民館の掃除など 70 歳以上は免除になった。弟夫婦がいる間はよいが、病気になったり亡くなった時のことが心配。夫の遺族年金と自分の年金で生活に問題はない。無駄使いしないように暮らしている。どちらの制度も知らない。弟さんの健康状態や死亡等によって今後、相談の可能性あり。</p>
<p>⑮ 60代 精神保健福祉手帳</p>	<p>(日常生活自立支援事業を利用したきっかけ) 未だ利用したことはありません。食事の準備・買い物・洗濯・掃除・体調への配慮などは母親がしてくれています。お金の管理は、大きなお金に関しては妹が管理してくれています。物事の判断は母親と話し合っ決めて決めることが多いです。家では母親と話をします。障害者支援施設にいるときは障害者支援施設の職員や利用者と話しますし、それ以外では、高校の時の同級生の友人と、出会って話すことが時々あります。お金の管理を人に頼むようになりました。以前は父親に頼んでいたのですが、父親が脳梗塞で倒れ施設に入所してからは、妹に頼むようになりました。お金のことでは妹に相談するようにしています。今は財産管理や大事な判断については妹に頼むようにしているので、自分には必要ないかと思ひます。日常生活自立支援事業、成年後見制度ともに知らなかった。</p>
<p>⑯ 40代 療育手帳</p>	<p>食事の準備は母親と一緒に作る。一人で作ると、2人暮らしの量が分からず、多量に作ったりする。買い物は一人で行けるが、食材の量も多量に買ってくる。お金の管理は親が支援。物事の判断は理解しているようで、相手のことより、自分の思いを通してしまふ(押し付ける)。(日常生活でよく話をする人) 母親や近所に住んでいる親戚の叔母。(昔と比べてできなくなったこと) 今のところはないと思う。相談できる人は相談員や親戚など。成年後見制度は聞いたことはある。</p>
<p>⑰ 60代 精神保健福祉手帳</p>	<p>(日常生活自立支援事業を利用したきっかけ) 退院する時にお世話になりました。長期間入院していました。(日常生活の様子?) ヘルパーさんや訪問看護、相談員さんとか、色々な人に助けられています。自分でも買物や掃除をします。調理は目玉焼きとかソーセージを炒めたりとかしますよ。デイケアへ行ったら、沢山話をする人がいますよ。アパートでは近所の〇〇さんと〇〇さんかな。(昔と比べて、できなくなったことはあるか? そのような時に相談できる人はいるか?) ないかな。10年前(地域移行当時)と比べて出来ることが多くなりました。見た目</p>

	<p>も若々しいって言われるし。(日常生活自立支援事業や成年後見制度は知っているか?) お金を預かってくれる人? これからもよろしくお願いします。</p>
--	---